

テトテトテト



校長だより 2023.12.21 NO.7

ろう学校における「言語指導」

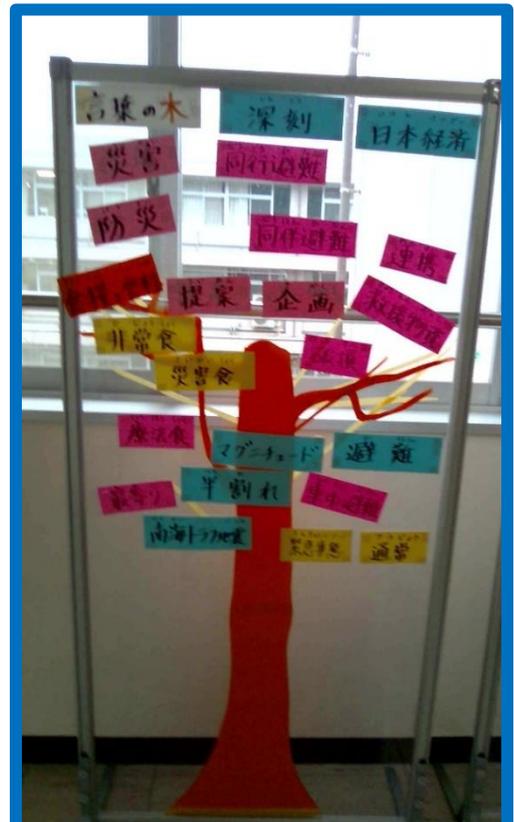
本校のスクール・ミッションの1つ目は、「聴覚障がい教育(重複障がい教育を含む)の高い専門性をもった学校」です。聞こえない・聞こえにくい子どもは、音の世界からの刺激が入りにくく、言語獲得に課題が生じるという障がい特性があります。ろう学校で、昔から一貫して重要とされてきたのが「言語指導」です。「言語指導」とは、聴覚障がいのある子供がコミュニケーション能力を確かなものにし、それによって国語の基礎的な能力を身につけ、さらには、言語を媒介として言語的概念を形成し、抽象能力を高めていけるような特別な方法を、時間をかけて系統的に準備していくことである。」とされています(聾学校における専門性を高めるための教員研修用テキスト:全国聾学校長会専門性充実部会編)。

また、大西孝志教授(東北福祉大学)は、専門性の第一歩は聴覚障がいがある子どもを知ること、そして、子どもが言語をどうイメージ(概念化)しているかを確認して、それが間違っている場合には、子どもに正しいラベルを結びつけることが「言語指導」だと述べておられます。

本校のグランドデザインにも、子どもにつけたい力として、「確かな日本語力」を挙げています。幼稚部では生活言語の充実、小学部では学習言語の習得、中学部では学習言語の深化、高等部・専攻科では情報収集力・説明力の向上を目指して、言語環境を整備し、一人一人に応じた「言語指導」を行っています。先人の教えを学び、試行錯誤しながらも、「言語指導」の実践を積み重ねていくことが、聴覚障がい教育の専門性の維持と継承、発展につながるものと思っています。



幼稚部「ことばのネットワーク」・・・保育活動の前に、題材から連想される言葉を見える化して、教員の共通理解を図ります。



中学部「言葉の木」・・・総合的な学習の時間で、防災について調べ、重要な言葉を掲示しています。